



第89回日本感染症学会西日本地方会学術集会  
第62回日本感染症学会中日本地方会学術集会



第67回日本化学療法学会西日本支部総会

ランチョンセミナー3



# Antimicrobial stewardshipに活かす 迅速診断法とは ～呼吸器感染症を含めて～

司会

**宮良 高維 先生** 神戸大学医学部附属病院  
感染制御部 部長/特命教授

演者

**山本 善裕 先生** 富山大学附属病院  
感染症科 教授

開催日時

会場

2019年  
**11月8日(金)**  
12:15～13:05

**第4会場**  
アクトシティ浜松 4F [41会議室]  
〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町111-1

#### 《整理券について》

ランチョンセミナーは整理券制です。

配布日時：11月8日(金)8:20～11:40 配布場所：アクトシティ浜松 1F 大ホールホワイエ

※整理券はセミナー開始と同時に無効となります

第89回日本感染症学会西日本地方会学術集会  
共催：第62回日本感染症学会中日本地方会学術集会  
第67回日本化学療法学会西日本支部総会／旭化成ファーマ(株)／極東製薬工業(株)

## Antimicrobial stewardshipに活かす迅速診断法とは ～呼吸器感染症を含めて～

### 山本 善裕 先生

富山大学附属病院 感染症科



Antimicrobial stewardshipの概念の元に新しく生まれたわが国の抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team:AST) は、広域抗菌薬の届出および許可例、血液培養陽性例、耐性菌検出例、抗菌薬長期処方例などに対して、抗菌薬の選択が正しいか、変更・中止が必要ないかなどを継続して支援している場合が多い。その判断材料の一つとなるのが臨床検査である。抗菌薬開始時、変更時、終了時のいずれにおいても検査結果およびその解釈はきわめて重要である。

感染症領域における臨床検査は、塗抹・培養による微生物学的検査を絶対的な基本としながら、補助的診断法としてのバイオマーカー (CRP、プロカルシトニン、プレセプシンなど) や POCT (point of care testing) と呼ばれている迅速検査法が重要視されている。POCTの一つであるレジオネラ尿中抗原検査は、これまで血清型1のみしか検出できない欠点があった。しかし最近、血清型1以外でも検出可能なキットが開発された。レジオネラ肺炎は迅速な診断と適切な治療がなされなければ、予後不良となる重篤な疾患であるため、有用な検査法であり、今後臨床の現場においても広く使用されていくと考えられる。

また、新しい診断法としての質量分析装置 (MALDI-TOF MS) の普及は従来法と比較して菌同定までの時間を大幅に短縮させることが可能となった。遺伝子検査は、培養に時間がかかる、あるいは培養自体困難である病原体の検出や耐性遺伝子の検出など多くの場面で頻用されている。さらに全自動核酸増幅システムや網羅的細菌叢解析法など様々な遺伝子検査が研究・開発されている。

本講演では新しいレジオネラ尿中抗原検査を含めて、Antimicrobial stewardshipに貢献できる迅速検査法について概説していく予定である。